

「病によって気付かされたこと」

岩佐 隆

毎日何となく生活しておりました。こんな生活がずっと続いていくのだと思っていました。いつかは病気になるだろうと思っていましたが、実際になってしまくと、自分の思っていたこととはかなり違っていました。半年前から患^{わづら}い、良くなっていくのかと思うとまた再発し、手術をやり直すということを繰り返しておりました。こんな病気に罹^{かか}るとは思ってもみなかったことです。

いつ治るのかわからないと思っていますと、何で自分がこんな病気に罹^{かか}ってしまわなければいけないのかと、毎日ベッドの上で悲しい思いとともに気が滅入^{めいり}っていました。

この苦しみから救ってもらおうと古い法話テープを聞くことにしました。すると病のことを話してくださっている法話が耳に入ってきました。その中では「病の原因は真理を遮^{かき}る無明^{むみょう}というものがもとで、愛着の心が起こるんだ。愛着の心が起こるから迷いの結果が生まれてくる。これがために病が起きてくる。」と話してくださっていました。この箇所を何回も繰り返して聞いていると、自分の病もこのことから起こっているのだと思えてきました。毎日思い通りにならないことをいつまでも考え、イライラしていました。そのうち自分の体に変化してきていることも知らずに、突然症状となってあらわれていました。

今、半年を振り返ってみますと、病気によって自分の周りも変わり、自分の行動も変わりました。本当にご縁によって生かされておるということを感じずにはおれません。